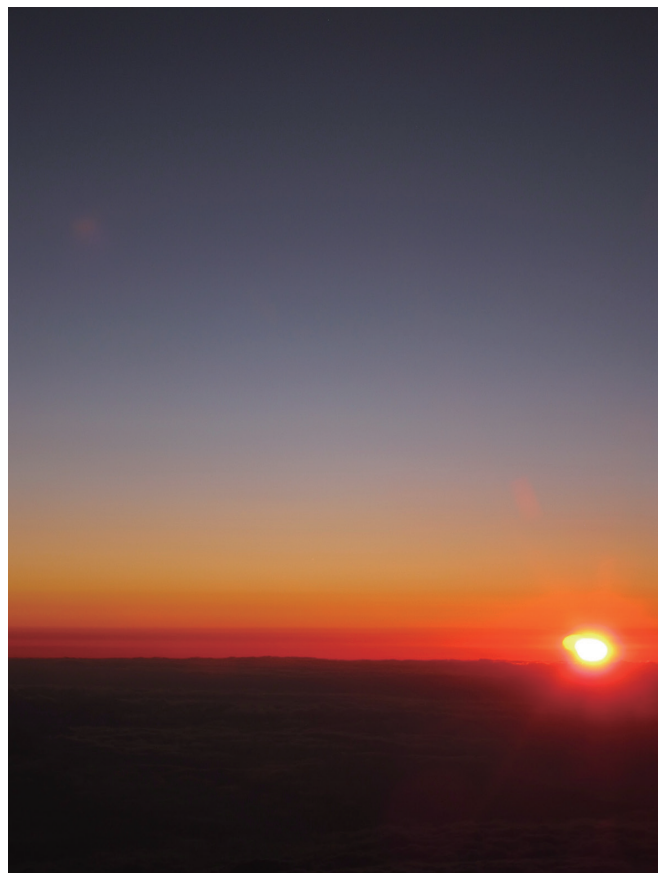


自分を深く掘り、世界とつながろう

心の力と音の力で 自発的に喜びを創造する年

サウンドヒーリング協会理事長 喜田 圭一郎



昨年6月、元国連事務次長 明石康氏が塾長を務める新渡戸国際塾にタイミングよく参加し、明石氏の講演をお聞きする機会を得た。新渡戸国際塾は「国際性」と「リーダーシップ」をテーマに、内向き志向になりやすい日本人と日本の世界における現状を鑑み、次世代のリーダー育成のために設けられた国際塾である。国際間の交流が益々盛んな昨今、国際舞台の「裏」で活躍できる人材が少ないのが日本の現状だと明石氏はいう。 また「国際人」というものがあるとすれば、それは流暢に外国語を話す人ではなく、外国の人々と違和感なしに「自然体」で接する事のできる日本人のことではないかと、故大来佐武郎氏の言葉を引用して述べている。

明治時代の国際人「新渡戸稲造」はその著「武士道」を1900年に米国で刊行した。初版は米国で大きな反響を呼び、その後、ドイツ、スペイン、ロシア、イタリア他、様々な国の言語で訳され明治の新生日本の姿を知ろうとする欧米の読者から賞賛を得た。岡倉天心の「茶の本」とならび、新渡戸稲造の「武士道」は明治の日本が世界に誇る、質の高いベストセラーと言える。明石氏の

講演会にて新渡戸稲造を思い出した2ヶ月後、面白いことにまたタイミングよく名古屋にて念願だったボストン美術館展に行く事ができた。そして岡倉天心の精神の一旦に触れる機会にも恵まれた。「武士道」は私がまだ青二才の頃、時間の約束にも恵まれた。「武士道」は私がまだ青二才の頃、時間の約束に遅れた私を見て「時間の約束は天との約束」「ならぬものはならぬ」と叱ってくれた私の大恩人が、その折、勧めてくれた本であり、真心で生きるその恩人の生き方を学ぶ本でもあった。

新渡戸稲造は明治維新の6年前、文久2年(1862年)に南部藩(岩手県盛岡市)の武士の家に生まれている。新渡戸氏の「考え方や習慣」に対しアメリカ人の妻が「何故そう考えるのか」「何故その習慣が日本で行きわたっているのか」とひんぱんに質問をし、その事が武士道の本をまとめ、本として執筆しようと思った理由と序文に記載している。そして自分が学んだ人の倫(みち)たる教訓は、学校でなく、家庭で自然と身についていった事、その観念の元となるのが武士道であったと述べている。

「武士道」は如何に戦いに勝利するかの武術の本ではない。いざという時に「命を掛けて」仕事をする当時の社会のリーダー(武士)の日常における「生き方」を教える本である。現代の日本人は今こそ、その当時の日本人のリーダーの生き方を再認識し、何故その習慣が身につき、日本に行きわたっていたか、を問い直す事が大切なかもしれない。

サウンドヒーリング協会の理事長の役をあずかっている私自身2013年の自分を考えるにあたり、昨年偶然に出会った新渡戸稲造と岡倉天心の心に触れ、世界に向けての活動と同時に自分を深く掘り下げて行こうと思った次第である。

黒船の到来により、生き方の違いによって開国か攘夷か、勤皇派と佐幕派に別れた維新の志士達、外国との接点の多かった長州や薩摩は攘夷の困難さをいち早く知り得ることで開国派となり、「錦の御旗」の力を借りて、新しい明治という時代を切り開いていく。明治維新後、たった数十年で欧米列強と肩を並べることが出来たのは世界でも例がない。その発展は江戸時代に皆で培った武士道という「コモンセンス」の下地がある事を忘れてはならないと司馬遼太郎は語る。日露戦争でロシアに勝利する事で攘夷を果たしたのではと考える人もいるようだが、新渡戸稲造の「武士道」はポーツマス条約(1905年)の

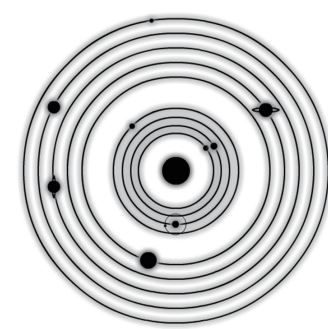
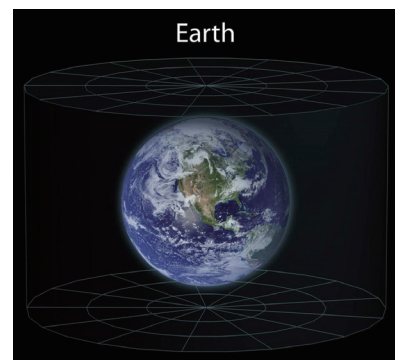


講和の条件に潜在力として貢献したことは間違いないだろう。

明治維新という日本の大きな変化以上の大きな変化が地球規模でありそうな「今」、心に忍び寄る、「心配や不安や恐れ」という外敵を今こそ、一人一人が心の力を発揮して打ち払い、自分の維新を起こす時ではないだろうか。

サウンドヒーリング協会の3つのメソッド 1)自然音で生活環境を快適にする。2)体感音響で心と体を調和をする。3)呼吸と声で自分の本心と繋がりを深める。この3つのメソッドを日常生活に活かす事は自分自身の維新を起こし、自分の心に先ず平和を創造し、自発的に喜びを創造する「心の力」を高め強くする。

サウンドヒーリングのメソッドは米国のニューヨーク、ペンシルバニア、アリゾナでも米国在住のセラピスト達により広められ、統合医療の医師達により加速し、米国社会に静かに浸透しつつある。今年3月米国セラピスト達と共に、10年の歴史のあるHolistic Cruiseに乗船し 米国社会のヘルスケアとウエルネスのリーダー達に混じってサウンドヒーリングを行う事になった。また6月には、日本の郵船クルーズの「飛鳥Ⅱ」にもセラピスト達が乗船しウエルネスプログラムとしてサウンドヒーリングを行う事になっている。



2012.12.21

私たちのふるさと地球は毎時約10万キロの速度で1年かけて10兆キロ程も宇宙空間を移動している。そして太陽系ファミリーも2億5千万年かけて天の川銀河を地球から見る北極星の方角に毎時60万キロの速度で移動し、皆でうちそろって各々の公転円の大きさで渦を描きながら移動

している。中心に位置する太陽も約28日で自転をしている。地球は自転と公転を繰り返し、その自転軸の北の方角へ渦を描きながら移動し、徐々に銀河の渦の中心に近づきつつある。

明治維新以降、日本国は欧米の仲間入りをするために、それまでの太陽太陰暦を改めて今の太陽暦(グレゴリオ暦)を採用し、現在の時計とカレンダーの約束事の中で生活している。「時間」は時計の動きではなく、本来、宇宙の天体の動きであり、地球上の全ての生命の営みは「太陽と月と地球」また「銀河」がもたらす恵みによってなりたっている。現在の時間の観念による生活習慣はその天体の営みと合っておらず、その概日リズムと生活リズムの狂いが、心身の不調の原因である事が明らかになってきている。昨年発売した屋久島の自然音CD付き書籍が多くの方々に求められているのも、体に本来備わったその自然のリズムを自然のエネルギーが封印された「音の力」で取り戻したいと無意識に感じるからではないかと思う。

従来の固定観念にとらわれず、新しい21世紀的価値観を創造する人づくりの為、サウンドヒーリングのリーダー養成研修会を今年から定期的開催することになった。地球という星の位置は変わり、時は変わり、刻一刻と私たちの大地は動いている。「今、私たちはどこにいるのか」を知ることは「今、何をすべきか」が明確になると新しい宇宙時代の暦を制作する「地球暦チーム」は説明する。



永遠に続く「今」を大切に生きる人づくり、自分づくりを、新たに2013年よりサウンドヒーリング協会は始めます。自分を深く掘り地球規模でも「真心」を発揮して「自然体」で活躍する自分づくり、皆で一緒にやりましょう。



大恩人の書「真心」

